

1 学期 5 月 1 2 日 期間集会 校長講話要旨

○連休を終えて

4 月の始業式・入学式から約 1 か月が経ち、新しい学年になって、中・高の 2 年生、3 年生は上級生の自覚はできてきましたか？新入生は中高合同の HR 合宿を終えて、学校生活に慣れてきたところでしょう。2 週間後には 1 学期の中間考査があります。そろそろ準備を始めましょう。

○大阪・関西万博について

今年 4 月 1 3 日（日）から 1 0 月 1 3 日（月）までの半年間、大阪市の埋め立て地、人工島の夢洲（ゆめしま）で日本国際博覧会が開催されています。今日でちょうど 1 か月が経過しました。大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。

日本での「万博」は、2 0 0 5 年の愛知県、名古屋市近郊の長久手で開催された、「愛・地球博」以来 2 0 年ぶり 6 回目です。「愛・地球博」の跡地は、アニメ映画「となりのトトロ」の「サツキとメイの家」が残ったことなどから現在「ジブリ・パーク」が展開されています。万博には以前は 2 種類あって、以前は「一般博」と言っていたものは、現在は「登録博」と定義されます。この「登録博」としては、今年の「大阪・関西万博」は 3 回目になります。国際的な博覧会、万博は国際博覧会協会に登録したものをいい、「登録博」と、ある一つの分野に特化した「特別博」に分かれます。

日本での最初の国際的な博覧会は、1 9 4 0（昭和 1 5）年に東京で、オリンピックと博覧会・万博を同時開催する予定でしたが、日中戦争の拡大によって、日本はオリンピックも万国博覧会も返上しました。そして第二次世界大戦後、1 9 6 4（昭和 3 9）年に、東京オリンピックが開催されました。この年は以前からお話ししているように本校が創立された年でもあります。

東京オリンピックから 6 年後、万国博覧会は 1 9 7 0（昭和 4 5）年に、大阪千里丘陵で日本万国博覧会が開かれました。いわゆる大阪万博です。アジアで初めて、また日本で最初の国際博覧会で、今から 5 5 年前、この時の万博のテーマは「人類の進歩と調和」で、現在も岡本太郎制作の「太陽の塔」が大阪千里に残っています。6 4 0 0 万人以上が入場したといわれています。このときに話題になった展示品の一つに当時の三洋電機が開発した「人間洗濯機」があります。当時これを実際に見た大阪の少年がこの「人間洗濯機」を製品化できないかと考え、今回の大阪・関西万博で出品されます。このように、1 9 7 0 年の大阪万博は当時の日本にとって大きなインパクトをのこしました。

マンガや映画にもなった「2 0 世紀少年」という作品があります。これはこの時の大阪万博を舞台の 1 つにしています。原作者の浦沢直樹は私と同学年で、当時小学校 5 年生でした。「2 0 世紀少年」は大阪万博に行けなかった子供がモチーフになっています。昭和 4 5 年当時の東京の小学生では、大阪の万博に行くことは難しく、夏休みに 1 つの小学校で 1 人か 2 人が行けるくらいのものでした。ですから 2 学期になって夏休みの思い出を語るとき大阪万博に行けた人は、その時のヒーロー、ヒロインでした。

また、1 9 6 0 年代から 7 0 年代にかけて経済成長した日本をモデルに、東アジアの国では、オリンピックと万博を開催しています。韓国では、1 9 8 8（昭和 6 3）年に首都ソウルでオリンピック、5 年後の 1 9 9 3（平成 5）年に中部の商工業都市、大田（テジョン）で国際博覧会を開催しています。中国では、2 1 世紀に入って 2 0 0 8（平成 2 0）年に、首都北京で夏期オリンピック、2 年後の 2 0 1 0（平成 2 2）年に上海で国際博覧会を開催しています。

韓国と中国の万博は登録博・一般博ですが、一つの分野に特化した、特別博では、当時もっとも入

場者を集めたのが、1985（昭和60）年に開催された日本の筑波科学万博です。これは大阪万博と同じ年、1970年に公布された筑波研究学園都市建設法によって、現在のつくば市周辺に、研究学園都市建設に関する総合的な計画を策定しました。その実施を推進することにより、試験研究および教育を行なうのにふさわしい研究学園都市を建設するとともに、ここに均衡のとれた田園都市として整備し、首都圏の人口集中を緩和する目的として、首都機能の移転も視野に入れたものでした。

このために東京教育大学を改組して、筑波に移転させて研究学園都市の中心にしようとしてしました。現在の筑波大学です。また、研究学園都市にふさわしい公共施設、公益的施設及び、団地の住宅施設を一体的に整備するだけでなく、筑波の国内外における知名度の向上と民間企業の誘致を目的として、国際科学技術博覧会・科学万博を開催して、これに合わせて、現在のつくば市の中心部の商業施設や交通機関を整備しようとしてしました。

筑波科学万博では「人間・居住・環境と科学技術」をテーマとして、日本を含む48か国と37の国際機関が参加しました。総入場者数は、2千万人を超え、東京・首都圏で行われた万博という開催場所の地の利も手伝って、この総入場者数は当時の特別博覧会史上最高入場者記録となりました。このときの名残がつくばエクスプレス線の「万博記念公園」駅です。つくばでの科学万博開催のときの交通アクセス手段としては、高速道路はこの万博開催に合わせて常磐自動車道が東京から日立市まで開通しましたが、鉄道ではつくばエクスプレスはまだありませんので、国鉄常磐線の牛久駅と荒川沖駅の間に仮の乗降場として、万博期間中「万博中央駅」が作られ、ここからシャトルバスが往復するようになりました。この仮乗降場の跡地につくられた駅が、ひたち野うしく駅になります。仮駅の万博中央駅は、筑波科学万博期間中のみ利用され、いったんは取り壊されましたが、牛久市と住宅都市整備公団、現在のUR（都市再生機構）が建設費用を負担する請願駅として、筑波科学万博が終了した13年後の1998（平成10）年に開業して現在に至っています。

また、1985年の筑波科学万博開催に合わせて、2年間かけて当時の国鉄常磐線の中距離電車の色が変わりました。それまで赤電と呼んでいた、ローズピンクから白地に青色のラインを入れたカラーリングに変更されました。常磐線の利用者は上野から取手までの緑色の快速電車を青電、取手から先の勝田・平（現在のいわき）方面まで行く電車を赤電と呼んで使い分けていたのですが、この言葉も使えなくなりました。常磐線のイメージアップのための電車の色の変更といわれましたが、ローズピンクから白地に青のラインになるのがどうしてイメージアップになるのかは、当時大学生だった私には理解できませんでした。

それはともかく、万博を起点・契機に町づくりや、科学技術の発展や産業開発を行うというのが、日本や韓国・中国にとっての万博の在り様です。55年前の大阪万博では、アメリカと当時のソ連（現在のロシア）の宇宙開発の成果で、万博の目玉展示は「月の石」でした。今回の大阪・関西万博では、空飛ぶクルマや「火星の石」、人工多能性幹細胞（iPS細胞）製の「心臓」など目玉です。参加は、過去最大級の158の国と地域などからなります。来場者2820万人、経済波及効果3兆円を目標としているそうです。興味のある人はぜひ、大阪・関西万博に行って自分の目で確かめてください。

○終わりに

万博の話が中心でしたが、私たちの住む地域にも万博が大きな影響があることを理解してください。私の話は以上です。